

一人広報から始める、 無理のないショート動画内製化

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。



作り方ではなく、続け方まで決める。

- 1 内製化する目的
- 2 社内に残す判断
- 3 担当者と役割
- 4 最初の検証
- 5 改善を続ける基準

読み終えたら、誰が・何を・いつまでに・何を見て改善するかを決めていきましょう。

動画が作れないのではなく、 運営が設計されていない。



制作の前に、止まらない運営を一緒に整えていきましょう。

内製化の目的を、一文にする。

期待と負担を数字で比べ、
開始範囲と判断日を決める。

担当者依存



チームで判断・制作・改善



本数だけでなく、次の企画を社内で決められる状態を目指しましょう。

全部を社内で抱えない。

社内に残す
判断



顧客理解



企画判断



成果学習

外部で補う
専門作業



専門撮影



高難度編集



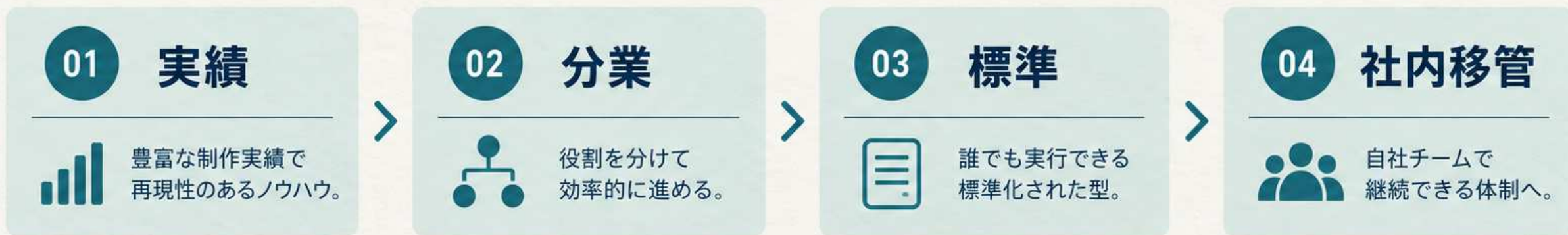
繁忙期の量産

——— 本数ではなく、**学習と継続の総コスト**で判断する。 ———



無理なく続けられる範囲から、社内の学びを増やしていきましょう。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。



累計取引社数

200 社以上



累計制作本数

3,000 本以上

広告

SNS

通販

営業

採用

実制作担当が、人員・目的・頻度に合わせて移管します。

現場で使える型を、自社のチームへつないでいきましょう。

全員を万能にせず、責任の空白をなくす。



ディレクター

目的・期限・完成条件



構成

誰に何をどう伝えるか



撮影

音・光・画角



編集

視聴体験



確認者

事実・ブランド・公開可否



分析者

数値と次の仮説



兼務しても、役割ごとの責任者は一人。

得意を生かしながら、迷わないチームをつくっていきましょう。

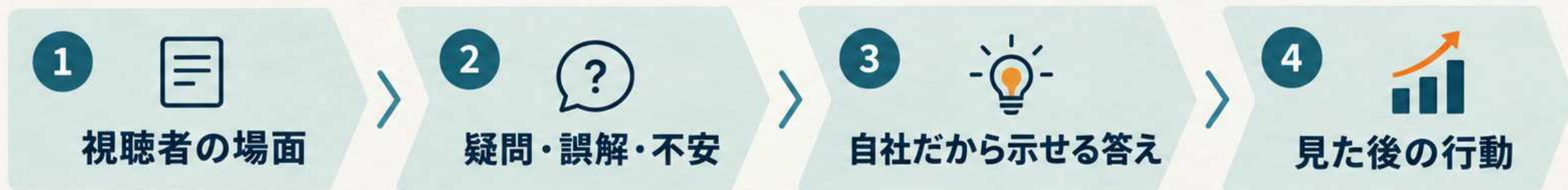
制作開始前の合意が、修正と停滞を減らす。



目的	対象	一番伝えたいこと	期待する行動	確認者	公開日	見る数字
----	----	----------	--------	-----	-----	------

決められる項目から、一つずつ揃えていきましょう。

伝えたいことより、相手の判断を先に置く。



冒頭で止まる理由をつくる

一つの疑問に、一つの答え。

相手の目線から、最初の一本を組み立てていきましょう。

センスを、再現できるチェック項目へ変える。

撮影前 | 台本・場所・許可

- ☒ 構成を用意
- ☒ 場所を決定
- ☒ 許可を取得

撮影時 | 冒頭・音声・光

- ☒ 冒頭を確認
- ☒ 音声を確認
- ☒ 光を確保

編集時 | 一画面一メッセージ・字幕

- ☒ 字幕を見やすく
- ☒ 不要な間を削る
- ☒ 流れを確認

公開前 | 事実・権利・計測

- ☒ 誤りを確認
- ☒ 権利を確認
- ☒ 計測を準備

必要カットは、撮影前に一覧化する。

チェック項目を揃え、誰でも再現できる制作へ近づけていきましょう。

高機能より、チームで繰り返せること。

1

1週間で
基本操作



2

テンプレートと
権限を共有



3

素材と最新版
が分かる



4

ほかの担当者へ
引き継げる



5

商用利用・
個人情報・
生成AIを確認



撮影



編集



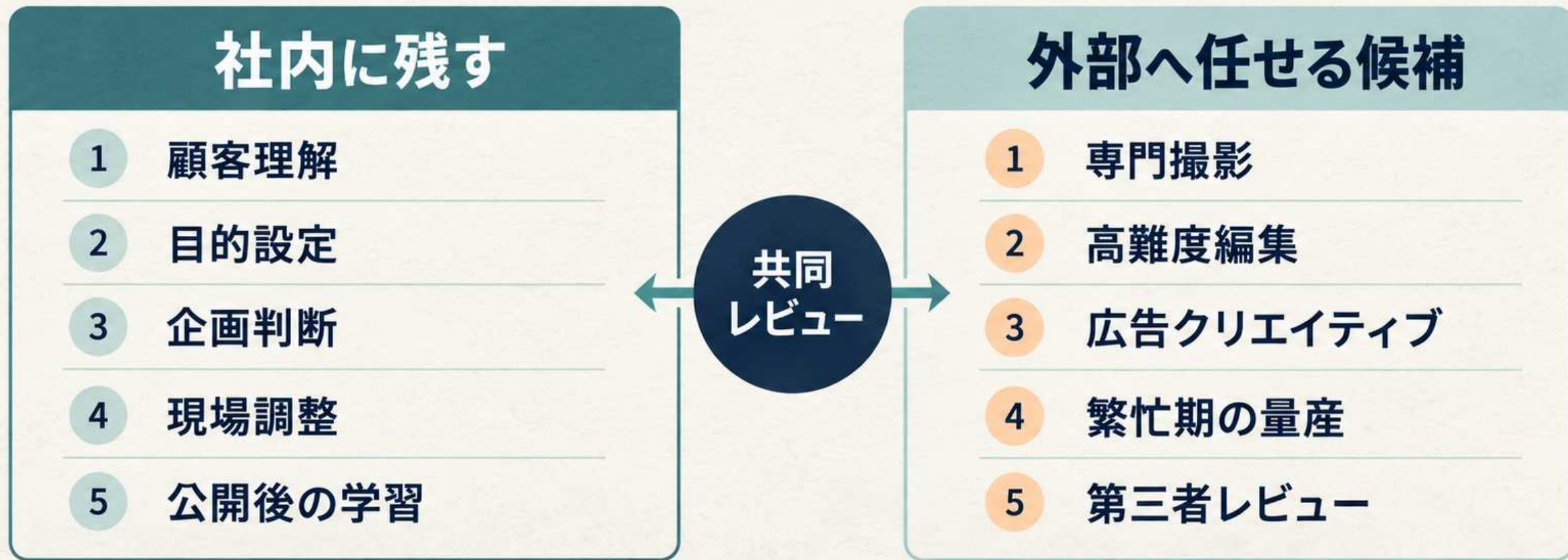
クラウド素材庫



企画管理表

最小構成から始め、必要に応じて足していきます。

判断は社内、変動と専門性は外部で補う。



→ 習熟度・繁忙期・成果・リスクを見ながら、月次で分担を更新しましょう。

再生数ではなく、目的までの流れを見る。

1 現在の外注費と社内工数

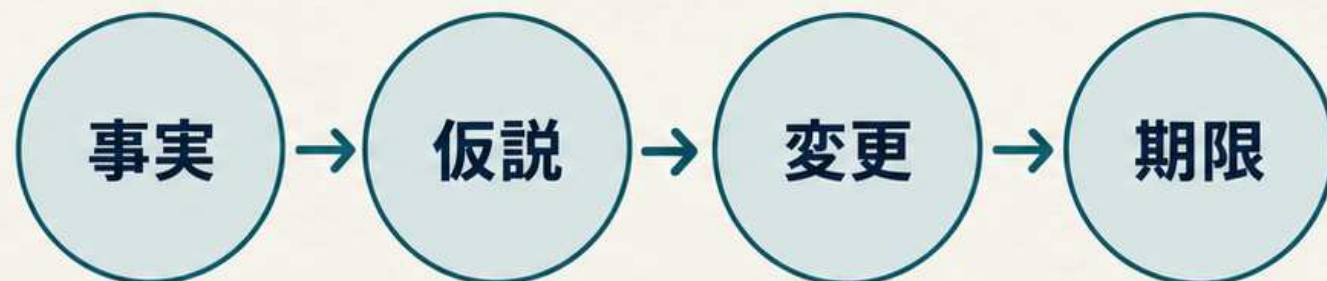
2 月間必要本数

3 担当者の確保時間

4 公開までのリードタイム

5 90日後の継続判断条件

改善のサイクル



予算・期間・対象・導線の違いも記録する

数字と現場の声を、同じ会議で次の一手につなげましょう。

小さく試し、作る範囲を広げる。



目的行動



担当者の負荷



修正理由と学び



次に残す型

成果保証ではなく、検証の進め方を示すモデルです。

無理のない範囲から、できることを増やしていきましょう。

最初から完成形を目指さない。



90日後に、自社に合う次の形を前向きに選びましょう。

明日から作るのは、動画ではなく運営の土台。

今日決めること

1

内製化で
変えたい
経営課題

2

最初の
視聴者と
テーマ

3

社内の責任者と
週の確保時間

4

外部へ相談する
工程

5

最初の4本を
振り返る日

自社の内製範囲を相談する >

役割・手順・改善方法を、一緒に設計していきましょう。